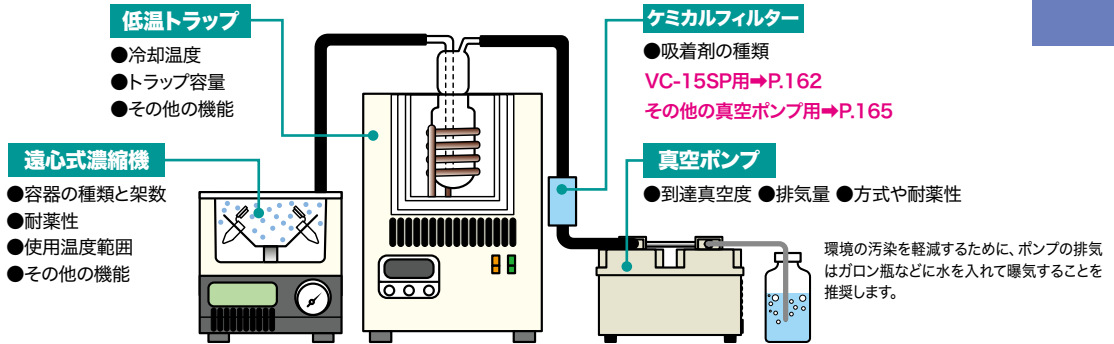


システムの基本構成と  
各機器の選定要素

## 遠心式濃縮機

型名	VC-15S	VC-15SP	VC-36R	VC-96R
材質	SUS304テフロンコーティング			
チャンバー	ガラス			
フタ	PVC(*)			
ローター	アルミ アルマイト			
耐薬性	水	○	○	○
アルコール	○	○	○	○
弱酸	○	○	○	○
強酸(20%塩酸等)	○	△(内蔵ポンプ使用時)	△	△
有機溶媒	○	○	○(*)	○(*)
アルカリ	○	○	○	○
使用温度範囲	+55℃(固定)		室温+5℃~+70℃	

◎：使用において基本的に問題なし ○：材質の劣化が経年変化によりやや目立つが使用可能 △：使用できなくもないが耐薬性が若干劣る

(\*) PVC製のフタは、DMSOを遠心濃縮した際の付着を放置すると白濁化します。ご注意ください。

適用容器とローター	マイクロチューブ	0.2mLマイクロチューブ	32本or8連×4本(15A)	-	-
		0.5mLマイクロチューブ	24本(15B)	-	-
		1.5/2mLマイクロチューブ	12本(15A、15B) 20本(15C)	40本(36A)	96本(96A)
		5.0mLマイクロチューブ	6本(15E) ＊スクリューキャップタイプは不適	8本(36C)	-
	マイクロバイアル	HPLC用2mLマイクロバイアル	12本(15D)	32本(36A2)	48本(96A2)
	スピッツ管	φ10~12mmスピッツ管	-	16本(36B)	48本(96B)
	試験管/遠沈管	φ17.5~18mm試験管 または15mLガラス遠沈管	-	-	36本(96D) ※φ17.5~18mm
		15mLディスボ遠沈管 または相当する試験管	-	8本(36C) ※φ17.5mm以下	36本(96C) ※φ16.5~18mm
		15/50mLディスボ遠沈管	-	6本+6本(36E)	8本+12本(96E)

## 真空ポンプ

遠心濃縮機のチャンバー内を減圧するために必要です。到達真空度だけでなく、排気量や耐薬性にも注目してお選びください。



型名	DTU-20	DTC-60	VU-100HC	GLDシリーズ	GCDシリーズ	Q-1
方式	テフロンダイヤフラム式		ロータリー式	油回転式		水流式アスピレーター
耐薬性	水、弱酸、有機溶媒		水、弱酸、有機溶媒	水	水、有機溶媒	水、アルコール系
到達真空度[Pa]	200	1000	70	0.67		水温による
排気量(50Hz時)	20L/min	60L/min	100L/min	50または135L/min		6~7L/min
備考	低沸点溶媒 (~70℃以下目安)向け		低沸点溶媒 (~90℃以下目安)向け	高沸点溶媒向け		水温により 真空度が変化

## 低温トラップ

遠心式濃縮機によって蒸発させた溶媒が大気中に放出されたり、真空ポンプを壊さないよう、捕集する装置です。有機溶媒のみならず、水でも大量に濃縮する場合は必要です。真空度によって、同じ溶媒・温度でも捕集の可否が変わります。 →P.164



型名	VA-250F	VA-500R	VA-800R
適応する遠心式濃縮機	VC-36R/96R		
冷却温度、トラップ容量	-45℃、約200mL/回	-75℃、約200mL/回	-70℃、約1000mL/回
備考	小容量・水系サンプル	小容量・一般サンプル	大容量・一般サンプル